

[成果情報名] 薬剤散布回数の違いによるカンキツ黒点病の発病程度の評価

[要 約] 黒点病対象の薬剤散布回数は多いほど被害軽減の効果が見込まれる。

[キーワード] 黒点病、化学的防除

[担当] 静岡農林技研・果樹研セ・果樹環境適応技術科

[連絡先] 電話 054-376-6154、e-mail kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

黒点病はカンキツの最重要病害として、着果期以降複数回の薬剤散布が実施される。しかし、近年の気候変動の影響が強くなっている状況で、必要な回数について具体的な検討はされていない。そこで、同一園地内で薬剤散布回数の違いによる黒点病の発生程度を3作期調査し、結果を統合することで影響を評価した。

[成果の内容・特徴]

- 1 エムダイファー水和剤 600 倍およびジマンダイセン水和剤 600 倍を用いた、6～9月の黒点病の薬剤散布（表1）は、回数が多いほど発病程度が低くなる（図1）。
- 2 作期により黒点病の発病しやすさは異なる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 黒点病の発病しやすさの年次変動は大きく、必要な回数を一概に決定することは難しいものの、多いほど効果は高い。
- 2 実際の防除では、エムダイファー水和剤またはジマンダイセン水和剤を用いる場合、前回散布から累積降水量 250mm～300mm を目安に散布する。また、気象状況や病害虫発生予察情報などを参考に判断する。
- 3 エムダイファー水和剤は 2026 年 10 月に失効予定。

[具体的データ]

表 1 年度ごとの散布実績

2023年	6/16	7/14	8/25	9/12	9/27
	マンネブ	マンネブ	マンゼブ	マンゼブ	マンゼブ
0回	-	-	-	-	-
2回	○	-	○	-	-
3回	○	○	○	-	-
4回	○	○	○	○	-
5回	○	○	○	○	○

2024年	6/11	7/18	8/19	9/2	9/30
	マンネブ	マンゼブ	マンゼブ	マンゼブ	マンゼブ
0回	-	-	-	-	-
2回	○	○	-	-	-
3回	○	○	○	-	-
4回	○	○	○	○	-
5回	○	○	○	○	○

2025年	6/17	7/24	8/26	9/9	9/22
	マンネブ	マンゼブ	マンゼブ	マンゼブ	マンゼブ
0回	-	-	-	-	-
2回	○	○	-	-	-
3回	○	○	○	-	-
4回	○	○	○	○	-
5回	○	○	○	○	○

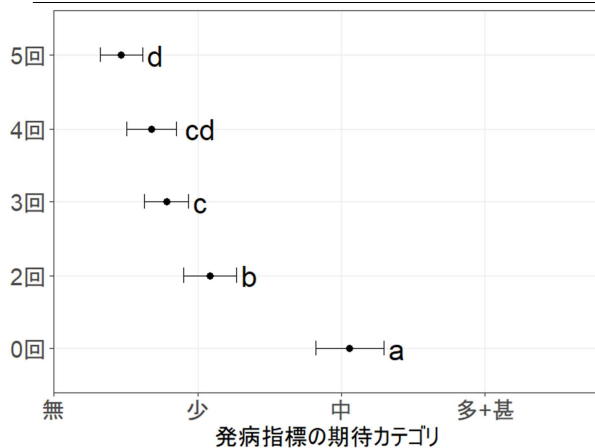


図1 薬剤散布回数ごとの発病指標の期待カテゴリ

※異なる符号間に有意差あり($p < 0.01$)

※エラーバーは 95%信頼区間

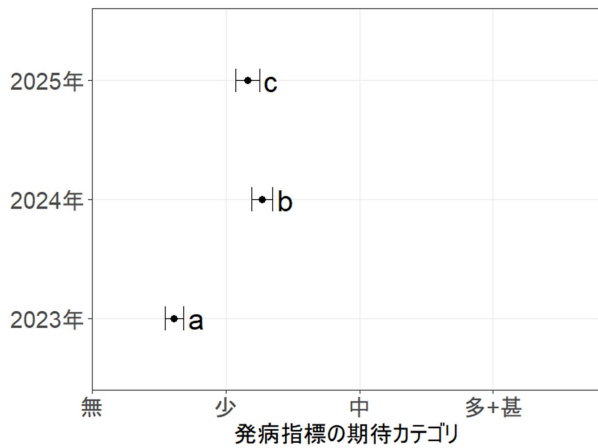


図2 作期ごとの発病指標の期待カテゴリ

※異なる符号間に有意差あり($p < 0.01$)

※エラーバーは 95%信頼区間

果実発病指標

無: 病斑がないもの 少: 病斑が散見されるもの 中: 病斑が果面の 1/4 以下に分布するもの

多: 病斑が果面の 1/4~1/2 に分布するもの(涙斑の軽いものを含む)

甚: 病斑が果面の 1/2 以上に分布するもの(涙斑、泥塊を含む)

[その他]

研究課題名: 温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発

予算区分: 新成長戦略研究

研究期間: 2023~2027 年度

研究担当者: 墨岡宏紀、石井香奈子、江本勇治

発表論文等: なし